

多く小薄片の價格騰貴せり、雲母片の一尺平方大に達するは稀なれば大形物を要するときはシエラックを以て服付けて使用す印度産の雲母は其品質及産額に於て世界第一なるが、之に次ぐな加奈陀産雲母とす、こゝには若土雲母又は琥珀雲母多し、此種のものに軟質にして發電機發動機の銅部分間の絶縁用となる、第三にタンガニイカは獨領時雲母年産額一六六噸なりしが一九一八年七月より一九二〇年四月迄に二一三噸を輸出せり、南ロデシアは純粹透明の白雲母を産し、マダガスカル島には採掘至便生産費低廉なる琥珀雲母の産出甚だ多く年額一六五噸に達す。

南米にてはアルゼンチンに雲母産多く、伯刺西爾にも雲母床ありと雖も何れも稼行盛ならず蓋し其採掘があまり投機的なるが爲なりといふ。

新刊紹介

○最新 業 智 識 京都帝國大學工學部探鑛冶金學教室 室内水曜會著作

東京麹町區中六番町五四、裳華房發行、菊版五五七頁、圖版二三七、全紙大圖版九、正價金六圓五拾錢

本書は國家の基礎的工業たる鑛業に關する智識を普及し、天然地質の愛護と、是が完全なる開發利用に資せんが爲めに、京都帝國大學工學部探鑛冶金學教室に於ける専門の諸博士學士が協力分擔し、世界各國から最新の材料を蒐め、幾多の苦心を重ねて、最近の學說や事實を、平易簡潔に叙述せられたもので、各部別人の筆に成れるにも係らず、記述の章句、順序、體裁等の善く統一せられて居るのは、協力の實が如何によく擧りて居るかを雄辯に物語つて居る、先づ總論に於て鑛物と人生の關係や、本邦鑛業の發達や有用鑛物の天然存在の狀態や、其採探、選擇、精煉の方法を面白く、餘り眉の凝らぬ様に記述し、其より銅、金、銀、鉛、亜鉛、錫、水銀、アルミニウム、鐵等の金屬鑛業に就て、世界諸國と本邦とに於ける狀態を詳論して、金屬の加工に及び、更に石炭、石油、硫黄の非金屬鑛業に就き其分布や、採探、利用の方法等を細大洩らさず述べ盡し、最後に建築石材と寶石の諸性質や其加工法、鑑別法迄も記載してある其間に銅銅版や精巧なる木版の切圖を挿入すること約二百四十個、加之卷首には數枚の鮮明な寫眞銅版圖や各種の統計圖、地圖が入れてあつて、記事の了解を助くること大なるのみならず、讀者をして親しく實地に臨むの感あらしめるのは、編者の懇切と苦心とを深く謝せねばならぬ、從來鑛業に關する邦文參考書甚だ少なく、斯道研究者の要望頗る痛烈なものがあるから、本書の發刊は實に大早に雲雨を得た觀がある、只切角の圖版の中に不鮮明なものが往々あり、活字の誤植が隨處にあるのは白璧の微瑕といふべきであるが、是等は改版の際必ず修正せらるる事と信ずる、又金屬鑛業中に滿庵、安質母尼等が省かれ、非金屬鑛業中に燐鐵や石墨が洩れて居る様である、是は無論重要なものでは無いが、建築石材や寶石までも洩らさず記載せられた懇切を感服して、改版の機會に増補せられんことを望むもので

ある。最後に度量衡が凡て米突法に統一せられてあるのは、時節柄至極結構であるが、鑛山などで實地説明を聴く時や、從來の報告書等には多く慣用の單位で記載してあるから、米突法に整一する迄、過渡時代と見做し當分の間米突法の數量の下に括弧を附し、從來慣用の單位に依る數量を記入して置ては如何のものにや、併し是も曆の場合と同様で、舊單位の數量を一切記入せぬ方が米突法の實施を促進する譯だから、其は斷然爲さぬ方針だま云はるれば一言もない。(水石生)

○太田吉岡村誌 岡山縣赤磐郡千種尋常高等小學校編輯

岡山縣赤磐郡太田吉岡兩村は古は藤野郡沙石郷といひ備前で最も古い刀鍛冶のゐた場所で、今は山陽線萬富驛のある處である。本編は同村の荒木誠一氏が拮据三年餘を費して編纂せる所に係り、菊版四〇六頁、色刷地圖一葉珂羅版廿一葉、總論の第一沿革の部は古墳、條里、窯跡、吉岡鍛工、城址、戦跡の諸章を分ち、降つて第二現代に入り地理政治産業交通經濟兵事教育宗教及社寺團體等の章を分ち更に大字誌に各大字の沿革社寺墳墓人物文書等の諸節を逐ひて詳述してゐる。備前燒の陶器と備前刀とは有名な地方工業で吉岡附近にはその最も古い遺跡を存し、奈良東大寺の瓦を燒いた窯跡や刀鍛冶の鑛滓が発見せられた報告があり、且つ多數の古墳の調査書もあり、名は村誌であるが備前の石器時代から現今までの文化の發達變遷の縮圖を此處に見るのは頗る面白い。荒木氏が篤學の人で永山卯三郎氏の指導の下に此の如く村誌として模範的大作を完成されたのは大に推獎せねばならぬ。自分は備前鍛冶で最も古いものを爲則と

考へたが、此の書を読んで初めてその住所が或は沙石郷ならんとの暗示を得たので隠銘を精讀して備前國沙石住倅因區爲則と刻んだのを發見したのは愉快であつた。氏は長船鍛冶は此處から移住したと考へられたが、惜むらくは福岡長船島田吉井の諸邑に本誌に匹敵する調査がないので未だその源委分派の詳細を知るこゝが出来ぬ。挿圖寫眞裝釘印刷共に鮮明美麗で内容の豊富なるに譲らぬのは地方誌中の出色の點である。發行所は千種高等小學校組合で實費約五圓で殘本を希望者に頒つといふ。(T)

質 疑 應 答

問 現今世界に於ける小麦の主要なる生産地と其消費地を知らし。

答 小麦は世界的穀物で東西兩半球で暖帯及亞熱帯に渡つて一般に耕作せられるが、この植物は夏期の高温と、多雨でなくとも適度の降雨量があるのを好み肥沃の土壌をすく、従つて以上の地帯の中で低平なる沖積平野に尤も多く耕作せられ、南緯の黒土帯。塊甸地方がニューア流域及南アメリカの瘠せてゐないステップの地域の如きは其主な産地である、更に之を細説すれば舊大陸での小麦耕植は大西洋岸より太平洋岸に連り暖帯の地域をしめ歐洲で佛國から地中海岸の諸國、匈牙利、南ろしや等が主産地で獨逸の如きは南西部に限りて出来る、亞細亞では